



スマートフォンの利用

スマートフォン（以下スマホ）は今や、私たちの日常生活で欠かせないツールとなっています。近年では急速な普及に伴い、大人だけでなく子どもたちもスマホを持ち、連絡や調べ物などさまざまな場面で利用しているのを目にします。しかし、便利である一方で、正しい認識や知識を持たないまま使っていると、非常に危険なものであるということも事実です。最近ではSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）などのコミュニケーションサイトを利用する子どもたちも増え、それに伴ういじめや犯罪に巻き込まれるという事件やニュースが日々報道されています。このような事件やニュースの背景には、大人が子どもにスマホを使う上での「ルール」や「マ

ナー」を教えずに買い与えていることがうかがえます。経験や常識、判断力を備えている大人でさえ、SNSに係る犯罪に巻き込まれることは少なくありません。まして、知識のない子どもでは被害にあって恐れが高いことは言うまでもありません。

子どもたちが犯罪の被害にあわないためにも、スマホを持たせる際には、ルールを決めることやスマホの問題点、危険性を教えることが大切です。文部科学省はスマホを持たせる際に、不適切な情報へのアクセスを遮断する「フィルタリングサービス」の設定を推奨しています。

スマホの安全な利用方法を教えるのは大人の役割です。大人は教える側として、スマホの正しい知識を持ち、守るべき「ルール」や「マナー」をしっかりと知っておく必要があります。単に使うことを禁止し、ルールを無理やり守らせるのではなく、子どもが自ら納得してルールを守るように家庭で教えていくことで、スマホは子どもにとってよりよいツールとなるでしょう。

▽問い合わせ 社会教育係

(☎2233局3546)



特別支援教育便り

▽問い合わせ 学校教育係
(☎2233局3547)

芦屋町では、一人ひとりに合った特別支援教育のさらなる推進に取り組んでいます。
小・中学校の特別支援教育の担当者と特別支援学級を紹介します。
※芦屋東小学校には自閉症・情緒障がい学級はありません。

令和元年 特別支援学級や特別支援教育にかかわっている担当者（敬称略）

	芦屋中学校	芦屋東小学校	芦屋小学校	山鹿小学校
特別支援教育 コーディネーター	鱒村 礼子	梁井 佳子	西牟田 裕子	古市 早苗
特別支援学級担任 (知的障がい)	かがやき学級 鱒村 礼子	たんぼぼ学級 梁井 佳子	こすもす学級 岩本 哲平	ひまわり学級 田中 里美
特別支援学級担任 (自閉症・情緒障がい)	きらめき学級 香月 康之		さくら学級 西牟田 裕子	なのはな学級 古市 早苗
通級指導教室 担当者	中原美郷	百田 由起子		

※芦屋町教育委員会担当者 教育相談員 森田 恵美子

発達障がいとはどんな障がいですか
主な発達障がいの一般的な特徴は次のとおりですが、個人によってもさまざまです。

●LD(学習障がい) 知的発達に遅れはありませんが、聞く・話す・読む・書く・計算するなどの能力のうち、特定の分野に極端に苦手な側面が見受けられます。

●ADHD(注意欠陥多動性障がい) 注意力や衝動性、多動性などが年齢や発達に不釣り合いで、社会的な活動や学業に支障をきたすことがあります。

●高機能自閉症・アスペルガー症候群 相手の気持ちを察することや周りの状況に合わせてたりする行動が苦手であったり、特定のものにこだわる傾向が見られます。
(文部科学省ホームページより抜粋)

このような障がいを総称して「発達障がい」と呼んでいます。発達障がいのある子どもは、障がいによる困難をかかえています。優れた能力を発揮する場合もあります。できる限り早期から適切な支援を受けることによって状態が改善することも期待されます。

※特別支援教育便りは、広報あしや6月1日号から隔月で掲載します。これからも特別支援教育を分かりやすく伝えていきます。

芦屋東小学校

学力向上・定着を目指して がんばりタイムの取組

本校では毎日5校時開始前10分間がんばりタイムを設定しています。ここでは曜日ごとに課題を決め、10分間集中して取り組んでいます。例えば、月・金曜日は前学年の算数の基礎基本の問題、水曜日は算数の活用問題に取り組むことで、学力の定着をはかっています。開始のチャイムとともに全校一斉にスタートします。がんばりタイムには校長をはじめ、全教員が各クラスに入り、チーム東小で取り組んでいます。



は校長をはじめ、全教員が各クラスに入り、チーム東小で取り組んでいます。

昨年度、芦屋町の全小中学校の全学級に電子黒板が設置されました。これによって、教科書の内容はもちろ



ん、子どもたちのノートやドリルをそのまま映し出すことができ、授業の効率化が図られるようになりました。また、デジタル教科書の活用により算数科「図形」の学習では、三次元映像の立体の面が開いていくことで展開図に変わる様子が一目でわかったり、理科では月の形の変化を動画で見たりすることができるため、子どもたちの理解を深めることができます。（教頭 樋口陽一郎）

学校での出来事を先生たちがお届け!!

芦屋小学校

活力ある小学校を創るために ～「チーム芦屋小」の取組

本校では、一人一人の個性や能力、発達に応じた教育の実現を願い、学校教育目標「知・徳・体の調和がとれ、たくましく『生きる力』をもつ子どもの育成」を設定しています。そのために、昨年度に続き、「頭の鍛錬による確かな学力」「心の鍛錬による豊かな心」「体の鍛錬による健やかな体」をバランスよく身につける子どもの育成を目的とした教育活動に全職員で取り組んでいます。また以下のような3つのゴール像を設定し、職員全員がチーム一丸となって「活力ある芦屋小学校」を創るべく、日々努力しています。

【芦屋小学校がめざす子ども像】

・あきらめない子ども:意欲的に学習に励む子ども(自主)



・そうぞうする子ども:よく考えて学ぶ子ども(創造)



・こうりゅうする子ども:誰とも仲良く協力できる子ども(協同)



【芦屋小学校がめざす教師像】

- ・子どもとともにある教師:子どもに愛情を注ぎ、子どもとともに向上する教師
- ・指導力のある教師:わかる・できる授業を創造するための研究・研修に励む教師
- ・信頼される教師:子ども・同僚・保護者・地域の皆さんと心通わせる教師

【芦屋小学校がめざす学校像】

- ・明るく楽しい学校:友達や教師、保護者や地域との信頼感に満ちた学校
- ・一人一人が尊重される学校:規律ある中で学習や生活を行い、認め合い高め合う学校
- ・環境が整備された学校:心身ともに安心して過ごせる学校

(教頭 久保哲哉)